

2019年12月5日
丸紅株式会社
株式会社ZMP

中部国際空港制限区域内における自動走行バスによる実証実験の実施について
～2020年度の実用化前の最終段階として、AIを用いた画像認識・遠隔操作技術を検証～

丸紅株式会社（以下、「丸紅」）と株式会社ZMP（以下、「ZMP」）の合併会社であるAiRO株式会社（以下、「AiRO」）は、中部国際空港制限区域内において、本年12月16日～18日の3日間、自動走行バスによる乗客の輸送を想定した実証実験（以下、「本実証実験」）を実施します。

AiROは、旺盛なインバウンド需要を背景とした航空輸送の拡大と生産年齢人口の減少に伴う空港グランドハンドリング業務の深刻な労働力不足に対応するため、空港グランドハンドリング事業や航空分野の知見とノウハウを持つ丸紅と、自動運転技術の開発力と実績を持つZMPにより、空港制限区域内の自動運転製品・サービスの事業化を目的に設立されました。

本実証実験では、中部国際空港制限区域内にて昨年度に実施した実証実験で活用した「ZMP製RoboCar® Mini EV Bus」(*)をベースに、各種自動運転の機能・性能の向上を目指します。今回は新たに、画像認識などのAI技術を用いた航空機検知機能による世界初の誘導路横断の自動判断システムや、バスを遠隔で操作する機能を検証します。中部国際空港第1ターミナルの国際線バスラウンジと航空機駐機場を往復する、乗客の輸送を想定したルートを走行します。

AiROは、本実証実験を、来年度に予定する空港制限区域内における自動運転技術の実用化に向けた最終実証実験と位置づけています。システムオペレーターを車内におかず遠隔管理室からドア開閉などのオペレーションを行うなど、より実運用に近い技術・サービス検証を行います。空港制限区域内における自動走行バスの実用化を目指すと同時に、来年度以降は自動走行車両および付随サービスの販売にも注力し、喫緊の課題である労働力不足の解消に貢献していきます。



(*) ZMPがバスによる乗客の輸送を想定して開発した自動走行バス「ZMP製RoboCar® Mini EV Bus」

<本実証実験概要>

実証期間	2019年12月16日～18日
実証場所	中部国際空港第1ターミナル
使用車両	ZMP製RoboCar® Mini EV Bus
実施内容	乗客の輸送を想定し、国際線バスラウンジと航空機駐機場の間の、航空機誘導路を横断するルートで走行。本実験で新たに検証する内容は以下2点。 <ul style="list-style-type: none">・ターミナルに設置した広域カメラで航空機情報（位置・誘導路の横断可否等）をリアルタイムで認識し、判断を行うAIシステムを介してバスの走行を自動で制御する検証・実際の運用を想定し、リモートコントロールセンターにて車両情報や周囲の状況を管理し、遠隔でバスを操作（走行開始やドアの開閉など）する検証

<関連プレスリリース>

- ・2019年3月12日
中部国際空港制限区域内における自動走行車両による実証実験の実施について
<https://www.marubeni.com/jp/news/2019/release/20190312J.pdf>
- ・2019年1月24日
成田国際空港制限区域内における自動走行車による実証実験の実施について
<https://www.marubeni.com/jp/news/2019/release/20190124J.pdf>
- ・2018年12月7日
空港における自動運転の事業化を目的とした合弁会社の設立について
https://www.marubeni.com/jp/news/2018/release/20181207_jpn.pdf

<報道機関お問い合わせ先>

丸紅株式会社 広報部報道課（TEL：03-3282-3293）

株式会社ZMP ロボリユーション事業部（TEL：03-5844-6210）

以上